

ナシを仕上げる防除対策（豊水・あきづき中心）

果樹試験場 口木文孝

いよいよナシの収穫が始まります。収穫作業に追われて防除が後回しになると、収穫時期が遅い豊水やあきづきなどでは防除適期を失ってしまい、病害虫による被害を発生させてしまいます。

そこで、病害虫から果実を守るためにも、忙しい時期ですが万全な防除対策を実施してください。

なお、収穫期の薬剤散布では、特に、各薬剤の収穫前使用日数に注意してください。

<ナシヒメシンクイムシ>

被害は7月頃から確認されますが、幸水と比べて収穫時期の遅い品種で被害が大きくなります。また、薬剤の散布間隔が長くなると被害を受けてしまいます。そのため、薬剤は約7～10日間隔で散布し、散布間隔がそれ以上開かないようにすることが重要です。フェロモン剤（ナシヒメコン）を使用している園でも、収穫前の防除を徹底しないと被害を受けることになるので注意してください。

テルスター水和剤1000倍、スカウトフロアブル2,000倍、アグロスリン水和剤1,000倍等の合成ピレスロイド剤、アルバリン（スタークル）顆粒水溶剤2000倍、モスピラン水溶剤2,000倍、ダントツ水溶剤2,000倍などのネオニコチノイド剤、ディアナWDG10,000倍などを散布します。



写真1 ナシヒメシンクイによる果実被害

<ハマキムシ類>

通常は、ナシヒメシンクイとの同時防除で対応できます。ただし、本種に対するネオニコチノイド系剤の本種に対する防除効果は低いことから、ハマキムシ類の発生が多い場合は合成ピレスロイド剤やBT剤であるファイブスター顆粒水和剤2,000倍などを散布します。

<果樹カメムシ類>

果樹カメムシ類は、主にヒノキで増殖し（主な餌はヒノキの毬果）、突然果樹園に侵入してくるので園内をこまめに見回す必要があり、侵入が確認された場合は薬剤を散布してください。今年は、お盆頃までの発生量（越冬世代虫）はやや多くなる可能性があります。なお、発生が少ない年であっても、8月中旬以降急に園内に飛来（新世代虫）して被害が発生する事例があるので油断禁物です。

アルバリン（スタークル）顆粒水和剤 2,000 倍、テルスター水和剤 1,000 倍、スカウトフロアブル 1,000 倍、アグロスリン水和剤 1,000 倍などを散布します。薬剤の効果は 10～14 日程度なので、カメムシの飛来が長く続いた場合は再散布してください。

また、アルバリン（スタークル）顆粒水和剤 2,000 倍の耐雨性は低いので、薬剤散布後にまとまった降雨が降った場合も再散布が必要となります。



写真 2 ナシ果実を加害するチャバネアオカメムシ

<夜蛾類>

夜蛾類は、忌避灯の点灯による被害回避が重要です。まず、忌避灯の蛍光管が切れていないことと、タイマーの時間設定に狂いが無いことを確認してください。忌避灯の設置の目安は、棚上まで含めると 40w の蛍光灯で 6～8 灯必要です。点灯時間は、夜蛾類の活動に併せて、日没直前～日の出直後とします。なお、木陰などになって光が届かない部分は被害を受けてしまうので、必ず、忌避灯の光が園内をまんべんなく照らしているか確認してください。万一、夜蛾類の被害が確認された場合、そこには光が十分当たっていないと判断して忌避灯の位置を調整してください。



写真3 夜蛾類による果実被害

<輪紋病>

果実、枝に発生し、果実では収穫時に病徴が確認されなくてもその後発病することがあるため要注意です。病原菌は、幼果期に果実内部に侵入し果実が未熟なときは組織内部に潜伏し、果実が成熟すると急に発病します。本病に対して、7月中旬～8月中旬に、幸水植栽園ではストロビードライフフロアブル 2,000 倍、ナリア WDG2,000 倍、幸水を植栽していない園ではオーソサイド水和剤 80 800 倍、チオノックフロアブル 500 倍などを散布してください。9月中旬にはアミスター10 フロアブル 1,000 倍を散布します。本病は雨で伝染するため、降雨が続くと被害が大きくなるので注意してください。

<炭そ病>

豊水及び新高で発生し、8月下旬頃から早期落葉し樹勢及び果実品質に影響します。輪紋病と同じ薬剤で発生を防ぐことができますので、輪紋病との同時防除を行ってください。